

# 令和3年度 事業計画

自. 令和3年 4月 1日

至. 令和4年 3月31日

一般社団法人香川県自動車整備振興会

## 総 論

昨年は世界中の誰もが予想していなかった新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、外出制限や営業自粛などにより経済活動が甚大な影響を受け、今までにない未曾有の経験を強いられました。

世界の経済状況は、新型コロナウイルス感染症の影響でマイナス成長となるなど、世界恐慌以来の景気後退に見舞われ、その広がりも地球規模となり、各国政府は大規模に財政出動して、国民の雇用、事業、生活を支援している状況であります。

また、東京オリンピック・パラリンピックについても昨年夏に開催される予定が今年の夏に延期となりましたが、最近の諸外国や国内の感染状況を踏まえ、本当に開催されるかどうか厳しい状況となっています。

一昨年は消費税が10月1日より8%から10%に増税され、10月以降の新車販売は低迷が続き、さらにコロナ禍により大きな影響を受けたところです。しかしながら鉄道やバス、タクシーに比べ自家用車は新型コロナウイルス感染の影響が少ないことからマイカーが見直され、特に中古車は即乗れることから中古車販売の需要が増えてきている状況となっています。

自動車整備に関して言えば、上半期の継続検査台数は前年度比マイナスとなっていますが、下半期から今年度の上半期については、過去の新車販売台数により増加することが予想されているところであり、コロナ禍でもサービス関係は大きな影響がなかったのではないかとされておりますが、コロナ禍の状況が長引くと外出制限や消費マインドの低迷により、点検整備や臨時整備が減少するなど整備業界にも今後少なからず影響があるのではないかと不透明な部分はありますが、今後、整備需要が増加し、景気が上向いていくことを期待しているところでもあります。

2020年の新車の販売台数は、前年比11.5%減の459万8615台となり、4年ぶりに500万台を割り込むなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響で4～9月実績が落ち込み、リーマンショックの影響が大きかった2009年を下回りました。

登録車は同12.3%減の288万527台にとどまり3年連続で前年実績を割り込み、軽自動車は同10.1%減の171万8,088台と2年連続のマイナスとなりました。

10月以降は新型車が好調に販売され、前年比プラスとなっていますが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で来場者や受注のペースが減速しているため今後の動向が不透明となっております。

また、令和2年7月末には全国で8,209万台、香川県では同年7月末では793,988台と、若干ですが保有台数も減少しています。

最近は微増傾向が続いていたのですが、少子高齢化と人口減少などにより保有台数が減少していくことは避けられません。

自動車については、少子高齢化社会における交通手段の確保や交通事故の削減を図るため、安全運転を支援するシステムや自動運転システムが搭載され、最新の電子部品や装置が採用されていることから、自動車の検査や点検整備の分野においても、電子制御装置整備やOBD検査について自動車の電子化への対応が進められています。

加えて、継続検査ワンストップサービスの更なる利用促進につながる自動車検査証の電子化が導入されるなど、自動車を取り巻く環境は自動車本体、自動車の検査や点検整備など様々な仕組みについてもデジタル化が進められています。

昨年4月から電子制御装置の点検整備を行う特定整備の認証制度が施行され、香川県でも若干ですが、特定整備の認証資格を取得してきている状況ですが4年間の猶予があることから、まだまだ低調であります。

また、電装工場や車体工場などの専門工場が特定整備の認証を取得しており、業界としてはこういった専門工場との協力体制を行い、連携していかなければならないのではないかと感じています。

このような整備業界を取り巻く状況にあって、自動車の整備技術の高度化に向けた対応や、我が国が抱える人口構造問題により一層の厳しさが増している少子高齢化の影響で、若年労働者の採用難への対応も同時に求められ、整備業界を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にあります。

こうした状況下、自動車整備業につきましては、日整連より令和2年度自動車分解整備事業の実態調査結果が発表され、それによると令和2年度調査における総整備売上高は5兆6,561億円となり、前年度と比較すると345億円増（0.6%増）と4年連続増加しております。

いずれにしましても、車は日常生活や経済活動を行う上で必要不可欠な物であり、世の中全体で“安全で快適なクルマ社会の構築”が求められていることから、その一翼を担う自動車整備事業としては一貫して安全性の確保や公害防止、地球環境の保全、交通事故防止といった社会的使命の達成に努めるとともに、自動車ユーザーの保守管理意識の更なる醸成、高度な電子制御技術が採用された自動車の普及に対応した新技術の習得などに取り組んでいく必要があります。

一方、最近では長期使用車両も増え続けており、車のメンテナンスがより重要となってきています。

このため当会としましては、会員各位のご理解とご協力の下に、次の諸事業に積極的に取り組み、自動車整備業界全体の経営基盤の確立と活性化、社会的地位の向上に努めて参る所存であります。

#### （1）業界の振興・活性化対策

点検整備の必要性と保守管理意識の高揚をさらに浸透させるため、会員各位のご理解とご協力の下に、点検整備促進啓発活動事業の一環として展開している四季を通じた「オアシスのキャッシュバックキャンペーン」を積極的に展開するとともに、キャッシュバックキャンペーンのツール品として作成・配付している「無料カーチェック・シート」の普及浸透に努めてまいります。

また、日整連から自動車整備業の指針として示された「自動車整備業のビジョンII」に示された整備事業者の取り組みを引き続き推進するとともに日整連が構築している簡易に自己診断できる「経営自己診断システム」を推進するとともに業界の振興・活性化対策を積極的に行い、会員事業場の健全経営に向けた取組みを推進してまいります。

次に業界の問題として人手不足の問題があり、整備業界も人手不足感が顕在化しており、香整振では現在香整振のホームページ上に各会員からの人材募集の応募を掲載し、会員の従業員確保に協力するとともに整備業界の社会的責務や整備士の魅力などを発信し、さらには「外国人技能実習制度」や「特定技能制度」を活用した外国人を含めた人材確保に向けた対応を図ることにしています。

## (2) 業界の健全化対策

日整連が作成した「指定整備事業適正運営マニュアル（改訂版）」や「完成検査実施マニュアル」などを活用するほか、運輸局との間に設けられた「自動車整備業に係る監査・指導連絡会議」における情報交換を通じて、指定整備事業者の法令遵守の向上・浸透に努めるとともに、日整連作成の「指定工場の巡回指導マニュアル」に基づき、指定工場を対象とした巡回指導の検討を進めてまいります。

加えて、自動運転システムに不可欠なカメラやセンサーなどの装置を整備するための認証制度が新設（自動車特定整備事業者）されたことから、専用スキャンツールを用いてエーミング（機能調整）作業の実施や2024年から自動ブレーキなどについて、点検・検査を行うOBD検査が開始されることから、会員事業場の特定整備認証取得に向けた対応を図り、電子装置等の故障（整備）診断料金の有償化に向けスキャンツール等を使用した故障（整備）診断作業の普及促進に努めます。

さらに継続検査OSSを推進する目的から2023年に自動車検査証が電子化されることから情報提供を行うとともに適切に対応していくことにしています。

また、本年度についても車積載車（自家用）による有償運送許可に係る研修会を開催することにしています。

## (3) 法制・税制対策

政府は昨年度、自動車税などを減税されましたが、まだまだ十分とは言えず、さらに自動車関係団体と連携し、要望活動を行うとともに、自動車税や自動車関係諸税の今後の動向を把握し、適宜、会員各位への情報提供に努めてまいります。

## (4) 行政協力・交通安全対策

自動車関係行政の円滑な実施に協力するとともに、交通安全対策の推進など諸施策の推進に協力してまいります。

## (5) ICT化の促進対策

高度情報化社会に対応するため、ICT（情報通信技術）を活用し、日整連が運用しているFAINESの利用促進を進めるとともに、新たな会員の加入促進に努めてまいります。

特に特定整備の認証を取得して、「電子制御装置」の点検・整備を行う場合は、自動車メーカーや日整連の F A I N E S を活用して情報を収集しなければ作業ができないことから、さらなる F A I N E S の加入推進に努めてまいります。

継続検査ワンストップサービスに係る電子保適証については、平成29年4月にスタートし、電子保適の利用率はほぼ順調に推移していますが、日整連の電子継続検査代理申請についてはまだまだ低調であります。また、軽自動車の O S S 化も昨年1月から稼働されたことから、指定工場の O S S 化の推進に努めてまいります。今後は、自動車検査証も電子化されることになるなど、政府もデジタル化を推進していることもあり、指定工場の I C T 化を進め、生産性を高めるためにも各指定工場のワンストップサービスの推進に努めてまいります。

#### (6) 環境保全・省資源対策

温暖化対策については、整備業界の対応として、日整連による国の方針に基づいた新たな C O 2 削減のための数値目標の策定が行われ、引き続き削減の取り組みを推進していくことにしています。

世界的に温暖化対策の意識が高まっており、中国・ヨーロッパなどではガソリン車・ディーゼル車から電気自動車などにシフトする方向が示され、さらに日本においても2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとする政府目標を打ち出すとともに、2035年には純ガソリン車の新車販売を禁止する方向としており、自動車を取り巻く環境も大きく変貌しつつあります。

業界としては「環境に優しい自動車関係事業場の表彰制度」の普及推進を図るとともに日整連が構築している「環境家計簿 C O 2 算定システム」の利用促進に向けた取り組みを推進いたします。

さらに国土交通省のエコ整備推進施策に連携して、自動車ユーザーに対し、点検整備の環境への有用性を訴えていくとともに環境に優しいリサイクル部品の普及促進に努めてまいります。

#### (7) 自動車使用者対策

自動車使用者に定期的な点検・整備の必要性と保守管理責任の意識を浸透させるため、国土交通省が実施主体となり展開している「自動車点検整備推進運動」に参画するとともに「自動車点検教室」「点検整備促進街頭キャンペーン」並びに「新点検整備推進キャンペーン」の充実に努めてまいります。

また、年々増え続ける車齢が10年を超える長期使用車両の安全性等を確保するため、日整連が作成した「総合的なユーザー提案用資料」や「長期使用車両啓蒙チラシ」などを活用し、点検・整備意識の促進のための啓発活動を実施いたします。

さらに最近では全国で大型自動車の車輪脱落事故の発生件数も増加していることから今後さらに大型自動車等の使用者に対し、タイヤの脱輪事故防止について啓蒙を行うことにしています。

#### (8) 整備技術の向上対策

自動車整備士の養成講習や整備主任者技術研修の充実に努めるとともに、ハイブリッド車など先進環境対応車の普及に対応できる人材育成のため、各種の技能向上（自動車整備士再教育）研修の実施に努めてまいります。

なお、日整連では今年全日本自動車整備技能競技大会を開催する予定でしたが、会場施設が使用できないことから、令和4年に開催することとなっているため、香整振としても本年香川県自動車技能競技大会を開催し、全日本自動車整備技能競技大会の出場選手を選定したいと考えております。

また、ユーザーが新技術対応工場である旨を識別できるよう「スキャンツール活用事業場認定制度」のさらなる普及促進を図るなど、自動車整備業界の技術力の向上と自動車整備士の地位向上に努めてまいります。

#### (9) 自動車整備技能登録試験対策

自動車整備技能登録試験の実施機関として、学科試験及び実技試験の確実な実施に努めてまいりますとともに外国人技能実習評価試験を実施する等適正な対応を図ってまいります。

#### (10) 広報対策

ホームページを不断に見直し、会員各位や自動車ユーザーへの情報提供の充実に努めるとともに、当会の会報「近代整備」の充実に努めてまいります。

#### (11) 共済福祉事業対策

自動車整備事業者及び従業員を対象とした各種共済福祉事業を積極的に推進し、自動車整備業の経営基盤の強化に努めてまいります。

(12) 組織運営対策

定款に定められた会議を中心に諸会議を開催し、諸事業の推進に努めるとともに、日整連・整商連、全標協、四整連及び四標協並びに関係団体等と連携を密にし、円滑な組織運営に努めてまいります。

(13) 商工組合事業の推進指導

自動車整備業を営む組合員の安定した経営基盤の確保が求められていることから、本年度も香商組と一体となって、「商工組合事業のあり方に関する新たな提言」の浸透や購販事業等の推進指導に努めてまいります。

(14) 各支部（各支部青年部会を含む）との連携強化

定款に定められて諸事業を推進するためには、各支部の理解・協力が不可欠であることから、各支部との連携強化に努めてまいります

また、業界を活性化するためにも青年部会の活動が不可欠であることから、さらなる青年部会活動を積極的に支援することにしていきます。

(15) 事務局職員の資質の向上

日整連や整商連などが主催する各種研修会等へ職員を積極的に参加させ、資質の向上に努めるとともに、業務の合理化の推進に努めてまいります。

(16) 関係機関への要望等

自動車整備業のさらなる活性化と事業運営に係る負担の軽減化を図る観点から会員各位のご意見やご要望の把握に努めるとともに、関係機関への意見具申をしてまいります。

以上、本年度の主な諸事業を列記しましたが、会員各位におかれましては、これら諸事業の円滑な実施に向け、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、本年度の諸事業の詳細は、次のとおりであります。